

## 提出された意見と市の考え方

## 【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

## 【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他（個別施策に対する意見・要望等）

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
<b>北九州市上下水道事業基本計画2030(素案)に関する意見</b>				
<b>計画全般及び基本的方向性に関する意見</b>				
1	北九州市は、「市内に大きな水源がない」「山坂が多い」にもかかわらず、他の大都市に比べて料金が安価である。これは、上下水道局の経営努力だけでなく、長年にわたる市民、議会の上下水道への理解・協力・支援によるところが大きいと思う。	上下水道事業は、お客さまや関係者のご理解・ご協力・ご支援によって成り立っております。今後も、皆さまへの丁寧な説明を心がけてまいります。	1	④
2	現状と課題が書かれているが、市民は理解しているか。もう少し市民へのPRの仕方を考えたかどうか。	現在、上下水道局では、ホームページや広報誌、市政だより、出前講演等を通じて、上下水道事業や局の取組等についてお知らせしております。今後も、既存の広報に加え、市の公式SNS等も積極的に活用するなど、より多くのお客さまに、わかりやすくタイムリーな情報発信を行い、上下水道事業への理解を深めていただきたいと考えております。	2	①
<b>将来像1（市民生活を支える強靱な上下水道をつくる）に関する意見</b>				
3	地震に対する取り組みに、これまで以上に力を注いでほしい。北九州市はこれまで大きな地震被害が少なく、市民・行政ともに楽観視がちだったが、近年、大地震の発生は「時、所を選ばず」の予測が強まっている。中・大規模の地震発生で、施設の耐久、停電、緊急給配水など一気に対応が求められる。 地震の発生予測、想定事態、対応策などをより現実的なシミュレーションも取り込んで急ぎ取り組む必要がある。地震対応の先進自治体の取組も大いに参考にしてほしい。	水道事業の震災対策については、浄水施設や配水池、基幹管路、広域避難地等に至る配水管などの耐震化を行うとともに、基幹管路のループ化・2条化などのバックアップ機能の強化についても、効率的・計画的に取り組んでまいります。また、模擬事故訓練や危機管理研修を実施するとともに、他都市からの情報収集に努め、対応策などを改善してまいります。 下水道事業の震災対策については、地震時に最低限の水処理機能を確保するため、今後下水道施設の耐震化を進めてまいります。 また、下水道機能が低下した場合であっても、機能を早期に復旧させることを目的とした下水道BCPを策定しております。下水道BCPでは北九州市で想定している大規模な地震で発生する被害、液状化や津波等が起こる地域を予測し災害に対応する体制を整えております。	2	①
<b>将来像3（環境負荷の低減を図り、持続可能な社会に貢献する）に関する意見</b>				
4	「環境負荷の低減」について、「環境モデル都市」として低炭素社会実現に向けた取組に期待する。 ・上下水道施設の計画運用によるデマンドレスポンス対応、及びVPP参画検討 上水：配水量予測によるポンプの計画運転 下水：管内貯留を活用した計画運用	【上水道事業】 水道の安定供給の責務を果たしながら協力可能な範囲を考慮して、参画の可否を検討していくこととしております。  【下水道事業】 管路の余力などを活用した送水運転などは、これまでも実施しており、更なる省エネルギーやピークシフト対策に向けて取り組んでまいります。 デマンドレスポンスやVPPへの取組については、今後の技術開発の動向や国の施策、更には市の環境部門の動向を注視しつつ参画に向けての検討を進めてまいります。	2	④

提出された意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他（個別施策に対する意見・要望等）

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
<b>将来像4（国内外へ貢献していく）に関する意見</b>				
5	市の事業計画において、どのような狙いを持って海外事業を実施しているのか（市の事業計画における海外事業の位置づけ）も記載すると、なぜ海外事業・国際貢献を行うのかについて理解を得やすくなるのではないかと思います。	国際貢献は、本市が進める「SDGs未来都市計画」の中でも主要施策の一つとして位置付けられております。基本計画では、国際貢献をこのSDGsの推進施策の一環として位置付け、記載を行っております。	3	①
6	国際貢献については、国際技術協力を通じた信頼関係の構築が北九州市内企業の海外水ビジネスの推進・支援に繋がっているものと理解した。北九州市内企業の海外水ビジネスの推進が、北九州市と市民にとってどのような意味を持つのかまで踏み込んで記載すると、市民からもより海外事業に対して、理解が得られるのではないかと思います。	ご意見をいただいた点につきまして、国際貢献が本市や市民にとって産業振興や人材育成面でのメリットがあるという旨を追記いたしました。	3	②
7	北九州市内企業の海外水ビジネスの推進のみならず、国際貢献事業を通じた市職員の育成・経験蓄積（特に技術面）が北九州市内の水道事業の持続発展に貢献し得ることや、高校生ユース研修や本邦研修（海外からの研修員受け入れ）時の市民との交流事業が国際感覚を有する市民の育成等に繋がっていることなど、国際貢献事業の成果が市民にどのように還元されているのかを記載すると、より理解が得やすくなると思う。	上下水道技術の国際協力を通じて、SDGs推進や本市職員の技術協力向上（人材育成）、都市ブランド向上に寄与するものと記載しております。ご意見いただきました市職員の育成・経験蓄積について、追記いたしました。海外事業についての情報発信は、イベントやパブリシティ等を活用して引き続き行まいります。	3	②
<b>将来像7（健全な経営を行う）に関する意見</b>				
8	水道事業はR9年度から赤字になるとのことだが、対応策を知りたい。	経営改善や収入確保を図るとともに、本市に適した料金体系を構築できるよう調査や研究を行っております。	4	①
<b>北九州市上下水道事業中期経営計画2025(素案)に関する意見</b>				
<b>計画全般及び基本的方向性に関する意見</b>				
9	水道事業の起債について、将来世代に過度な負担を強いることがないよう、令和2年度と同程度の企業債残高で推移させる予定とあるが、私も同意見である。ただし、収支はあくまでも見通しなので、少しでも良くなるようこれからの経営に取り組んでいただきたい。	経営改善に努めながら安定的な経営が継続できるよう、今後も取り組んでまいります。	1	①
10	令和3～7年の各項目の事業目標は情勢に合っている。特に人口減少、節水機器（意識）による水使用の減少に伴う収入の問題、昨今の災害の多発は喫緊の課題である。	収入の問題、災害対策につきましては、重点施策として位置付けており、積極的に取り組んでまいります。	1	①
<b>将来像1（市民生活を支える強靱な上下水道をつくる）に関する意見</b>				
11	水道管路の耐震化について、50%（厚労省の耐震化率）達成後は引き続き耐震化を行うのか。	50%達成後以降も管路の更新にあわせて耐震化を進めてまいります。	2	①
12	水道管路の耐震化について、人口密度の高い部分を重点に少しでも多くの耐震化ができないか。民間企業の施工店確保も必要。	本市では、漏水事故などによる影響度を考慮し、計画的に耐震化を行っております。また、民間企業（地元企業）の確保は、大変重要なことと考えており、水道業者の育成のために講習・研修を引き続き実施していく予定です。	2	①

提出された意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他（個別施策に対する意見・要望等）

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
13	「自助・共助の促進に向けたソフト対策の充実」について、現在の合流地区を重点に特に高齢者に紙ベースで周知できないか。例えば高齢者向けの情報誌など。	今後は、ご家庭に配布している広報紙のご案内など、より良い周知方法を検討してまいります。	2	④
14	「災害時における機能確保の推進」について、停電時に飲料水を必要とする市民向けに携帯電話を充電できるよう簡易的な蓄電池の設置ができないか。	断水時に応急給水を行う場所については、水が必要な方に迅速な給水を行うことが目的であり、長時間被災者が滞在することを想定していないため、今のところ蓄電池を設置する考えはありません。	2	④
15	「上下水道施設の長寿命化と改築・更新」について、施設の経年による老朽化に対して、健全性診断を行い、それを基にした効率的な改修・改築計画を策定して長寿命化を図るべきである。また、施設の改修・改築計画は、優先順位を策定して実施する必要がある。	水道事業では、水道施設の構造物基礎調査の結果から、施設の長寿命化工事の実施時期や目標使用年数を定め、改修・改築計画を策定しております。また、劣化（健全性）診断の結果から、長寿命化工事の内容や実施時期の調整を行っております。 下水道事業では、下水道の機能を安定的かつ継続的に確保していくため、計画的に点検・調査を実施し、必要に応じて修繕等を実施しながら、施設の長寿命化を図っております。 また、日常の点検・調査や運転業務などを通じて施設の状況を把握するとともに、健全度評価を行ったうえで、優先度の高い箇所から計画的に改築・更新を進めてまいります。	2	①
16	「浸水被害の最小化」について、現在の下水道施設は、1時間あたり53mmに対応できるものとして建設されたものであるため、近年頻繁に発生する局地的なゲリラ豪雨（1時間あたり最大100mm）に対応できる施設ではない。結果として降水量に対して排水ができず、側溝より雨水が溢れ出して浸水被害が発生する。対策として有効なのは、下水道管の管径のサイズアップであるが、現状では不可能に近いので、地下に遊水池施設を築造してピークカットする対策がベターである。	これまでは、1時間あたり53mmに対して、浸水のない雨に強いまちづくりを目指して効率的に雨水整備を進めてきました。今後は、局地的・集中化する豪雨から市民の生活を守るため、新たに「重点整備地区」を設定し、地形や雨水の流れ、既存の雨水管やポンプ施設などの排水能力を十分に検証しながら、効率的かつ効果的な雨水整備を進めてまいります。	2	①
17	震災対策の拡充・強化について、大規模な地震などにより水道施設に損傷が発生して、断水にならないように送水管の2条化や配水管のループ化などバックアップ機能を強化することは良いことである。	地震などの大規模な災害が発生しても安定的な給水が確保できるよう、今後も効率的・計画的に取り組んでまいります。	1	①
18	上下水道の施設整備では、将来の水需要予測に基づいた施設の計画的改築と更新、新技術の開発応用に取り組み、また下水道では老朽下水道管渠、施設、設備の計画的更新、並びに局地的で長時間化する集中豪雨に対し浸水被害を最小限にとどめるための整備を進める計画になっており、市民生活の安心安全に努めていただけると心強く思っている。	高度経済成長期以降に集中的に整備した施設の更新、局地的な集中豪雨など近年頻発する自然災害などに対応するため、効率的かつ効果的に施設整備を進め、市民生活の安全・安心に努めてまいります。	1	①

提出された意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他（個別施策に対する意見・要望等）

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
19	<p>都市河川流域で雨水排除について面的整備ができるのは下水道事業だけである。河川は計画流量に対して一度改修すると、さらに河川拡幅するのはほとんど不可能である。そのため、遠賀川では笹尾川下流に大規模な洪水調節施設、金山川1~4号、天籟寺川、神嶽川の調節池など、河川拡幅不能流量分は調節して時間差を設けて排水している。従って、下水道から川に排水できる流量は河川の能力見合いである。また河川の負担を小さくできるほど集中豪雨時の流域の治水安全度は向上する。</p> <p>浸水安全度の向上には</p> <p>①下水道から川ではなく海に直接放流する仕組みにする。ポンプ排水、自然排水など（浅埋設の圧力渠は失敗）</p> <p>②河川流量が低減するまで一時貯留して時間差を設けて排水する。（地下貯留管や大規模公共施設地下の貯留施設、市民の理解を得て大規模民間施設は自分で雨水を地下貯留するなど）</p> <p>③施設設置者と市民の理解を得ながら、地表と地下水位面までを活用して地中浸透するエリアを地道に増やす。（市道域（歩道）、学校グラウンドや公園域、宅地内など至る所で、浸透能を超えるものは雨水渠に流す仕組み）</p> <p>地中浸透方式は地下水の涵養であり、河川、海洋、大気、降雨をとおした水の大循環で美味しい水道原水を育む行動に繋がる。</p> <p>これらの方法を検討し、短期長期の目標で使い分けて必要ならば条例規則の改定や要領、指針などを設けて、地球温暖化が原因とされる長時間豪雨の頻発水害から市域の被害をできるだけ小さくしていただきたい。</p>	<p>下水道から川に排水できる流量は河川の能力見合いであることから、流域に関わる関係者が、主体的に治水に取り組む社会を構築する必要があります。</p> <p>下水道としてのこれからの浸水対策は「浸水リスク」や「都市機能集積度」を定量的に評価し、新たに重点整備地区を設定し、より一層効果的な雨水整備を進めていくこととしております。重点整備地区においては、現行基準に基づき、地形や雨水の流れ、既存の雨水管やポンプ施設などの排水能力を十分に検証しながら、本市における過去最大規模の降雨に対して床下浸水が概ね解消できるように取り組んでまいります。</p> <p>また、河川や道路、公園、都市計画、危機管理など関係機関と連携を強化するとともに自助・共助の促進に向けたソフト対策の充実も図り、雨に強いまちづくりを進めてまいります。</p>	2	①
20	<p>上下水道事業は建設から維持管理の時代になったと言われるようになった。今日までに建設された膨大な施設を効率的に管理するためにはGIS（地理情報システム）の技術が欠かせないものと考えます。アセットマネジメント手法の精度を高めるうえでもGIS技術は効果的である。本計画の中にも、「マッピングシステムの機能強化」が重要施策に掲げられていることから、その取組に期待している。</p>	<p>計画的な維持管理を進めるため、マッピングシステムを活用してまいります。</p>	1	①
21	<p>「民間事業者や他都市等との連携強化」について、訓練実施後に課題を抽出し下水道BCPへ反映させる際は、参加した民間事業者の意見聴取もお願いしたい。</p>	<p>訓練にご参加いただいた方々からのご意見などもお聞きしながら、課題を抽出し、適宜、下水道BCPの見直しを行ってまいります。</p>	2	①

提出された意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他（個別施策に対する意見・要望等）

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
22	<p>◆1-1-2 上下水道施設の規模の最適化 下水道処理区の再編（資料編-p 42）において、北湊処理区（一部の地域）の生活排水を皇后崎処理区への編入する取組において、東中島ポンプ場の増強、企業立地などによる流入水量増加が提示されている。</p> <p>この結果、北湊浄化センターの流入水は、生活排水割合の相当な減少、特定事業場排水割合の増加となり、特定事業場からの有害物質等流入事故による浄化センター被災や浄化センター処理水質の低下などのリスクが高まる。</p> <p>ポートフォリオとして3-1-2水質監視強化に加え、平常時より工場・事業場水量の時間水量のモニタリング施設の取組の提示をお願いします。</p> <p>その活用による今後の企業立地による流入水量増加と処理水質により浄化センター増強、工場・事業場の水量調整施設など段階的整備の提示をお願いします。</p> <p>【意見の理由】 国土交通省「下水処理場での悪質下水・有害物質等の流入事故例調査」結果を見ると、特定事業場から下水道に有害物質又は油を含む下水が流入する事故例が報告されている。</p> <p>本取組により悪質下水・有害物質流入事故のリスクが増加し、浄化センターが被災した時には、下水道が水域の重大な汚染源となりうることから、公衆衛生や市民生活等への影響が懸念されるため、工場・事業場水質監視強化は必至である。</p> <p>また、工場・事業場排水は、一定規模以下の事業場排水と、排水処理施設で下水道の排除基準まで処理した工場・事業所排水があり、本取組により工場・事業場排水割合が増加することとなり、これまでの生活排水を主体とする流入水と異なり、微生物で処理が困難な事業所排水が増加した場合、浄化センターの微生物で処理するには現有施設では限界がある。</p> <p>このため、本取組みに当たっては、工場・事業場排水の時間流入量のモニタリング施設を整備し、これを活用し今後の企業立地による流入水量増加と処理水質により浄化センターの増強、工場・事業場排水の水量調整施設など段階的整備に取り組み水質リスク軽減に取り組むべきである。</p>	<p>ご指摘のとおり、下水道処理区の再編によって、北湊浄化センター流入水における特定事業場排水の割合が増加する可能性はあります。</p> <p>懸念されている浄化センター処理水質の悪化等を防ぐため、現在、定期的に行っている工場・事業場の水質検査及び立入検査について今後も継続するとともに、必要に応じて水質監視の強化を図ります。また、監視対象の事業場に義務付けされている排水の定期的な自己測定の結果についても報告を求めていきたいと考えております。</p> <p>さらに、事業者に対して、法規制の周知や下水道の適切な利用に関する啓発を徹底し、リスクの低減につなげていきたいと考えております。</p> <p>あわせて、浄化センターの増強等のご意見につきましては、処理場流入水質の監視を強化し、異常時には管内貯留の有効利用等によって処理水質の安定を図ります。</p> <p>なお、万一、水質事故が発生した場合に備えて、事故時の措置について特定事業場への周知及び他部署間の連絡体制を整備しております。</p>	2	④
<p><b>将来像2（いつでも安心して飲める安全な水を届ける）に関する意見</b></p>				
23	<p>「直結式給水の普及促進や小規模貯水槽水道の管理指導」について、今後の新規設置場所については、有料で年1度の水質検査等の安全検査を行うのはどうか。</p>	<p>上下水道局（水道事業者）で行う管理指導等は、衛生部局の管理指導等との立場が異なり、水道条例（給水契約の契約約款）に基づく指導の域を出るものではありません。しかし、管理指導等を行うにあたっては、衛生部局との連携は不可欠であることから、今後の参考とさせていただきます。</p>	2	④

提出された意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他（個別施策に対する意見・要望等）

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
<b>将来像3（環境負荷の低減を図り、持続可能な社会に貢献する）に関する意見</b>				
24	<p>◆3-1-1合流式下水道の改善推進</p> <p>取組内容として、簡易処理の高度化が提案されているが、雨天時の水位制限が求められている浄化センターの遮集容量を増強していない場合、簡易処理の高度化を行っても放流回数や放流量の削減には寄与しないため、合流改善対策としてはVFMが低い。</p> <p>簡易処理の高度化の取組みにあたっては、必要条件として求められる遮集容量の増強など、公衆衛生上の安全確保の目標達成に必要な対応の提示をお願いする。</p> <p>【意見の理由】</p> <p>1) 北九州市の有収水量は平成10年をピークに減少（基本計画2030 p 12）に転じており、将来的にも人口の減少（基本計画2030 p 16）が予測されている。浄化センターの処理能力に余裕が生まれており、遮集容量の増強を行うことで、浄化センターの放流回数の削減と処理水量を増やすことができるため、汚濁負荷量の削減効果は大きい。</p> <p>2) また、遮集容量増加によって、流達時間が延びることやファーストフラッシュを低減できることから、簡易処理の高度化取組のVFMが最大化できる。</p> <p>3) 必要な遮集容量増強をしない簡易処理の高度化では、ろ材の閉鎖によって流入水の波み上げに支障が生じた場合、汚濁負荷の増加や低地部の浸水の防除の観点から問題がある。</p> <p>このため、連続的継続的に処理ができる簡易処理の高度化設備の設置と適切な運転管理を行うことに加えて、遮集容量増強を実施した上で簡易処理の高度化取組を実施すれば、汚濁負荷削減とともに浸水リスクの低減ができる。</p>	<p>合流式下水道は、大雨時に、汚水まじりの雨水が、未処理のまま排出されることがあるため、放流先である川や海の水質汚濁などの問題が指摘されております。</p> <p>そこで、下水道法施行令の改正が行われ、令和5年度末までに、合流式下水道の汚濁負荷量を改善することが義務付けられ、雨天時における合流式下水道の放流水のBODを40mg/L以下とすることが定められました。</p> <p>そのために、「川や海へ放流する汚濁負荷量を分流地区と同程度以下」とすること、「未処理の下水が川などへ流れだす回数を半減すること」などへ対応する必要があります。</p> <p>以上のことから、本市では平成16年度に「合流式下水道緊急改善計画」を策定し、分流化、雨水滞水池の整備や、簡易処理の高度化を進めております。</p> <p>合流改善事業の実施後は、その効果についてモニタリング等を行い、環境負荷の低減に向けた取組を進めてまいります。</p>	2	④
25	<p>◆3-1-4 省エネルギーの推進</p> <p>取組内容として、下水道施設の二酸化炭素排出削減量が25 t/年为目标として提案されているが、新たな投資は不要で維持管理方法の改善による省エネルギー対策とその結果の提示をお願いする。</p> <p>【意見の理由】</p> <p>国際的な潮流（2050年にCO2実質0）や北九州市環境基本計画（2030年度において2013年度比 26%の水準にする中期目標）を受け、二酸化炭素排出削減に向け新エネルギーの創生として本基本計画では3-1-3再生可能のエネルギーの活用、3-1-5資源の有効利用の提示がある。</p> <p>一方、エネルギー消費量の削減のための3-1-4省エネルギーの推進では、ポンプ場照明のLED化を計画的に取り組みによる二酸化炭素排出量削減25 t/年の計上があるが、更なる二酸化炭素排出量削減が必要である。</p> <p>脱炭素社会の実現超低炭素社会とその先の脱炭素社会の実現に向けた積極的な省エネルギーとして、機器更新に加えて、新たな投資は不要で維持管理方法の改善（機械の運転方法、水処理方法、汚泥処理管理など、維持管理方法・マネジメントの改善）による省エネルギーの削減ができる。</p>	<p>2050年の脱炭素に向けた国の提言を踏まえ、最適な運転方法の検討や新たな省エネルギー対策の検討を積極的に続けてまいります。</p>	2	④

提出された意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他（個別施策に対する意見・要望等）

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
<b>将来像4（国内外へ貢献していく）に関する意見</b>				
26	北九州市は、水道事業の広域化や海外水ビジネスに関して国内のトップランナーだと思っている。今後も進めるべきで、それがSDGsの達成にも大きく貢献する。その際に、上下水道局だけでなく、市の外郭団体や、北九州市海外水ビジネス推進協議会会員企業、その他の優秀な技術を持った企業を活用すべきである。	広域連携の推進にあたっては、北九州ウォーターサービスをはじめ、地元企業の活用を努めてまいります。 また、海外水ビジネスの推進にあたっては、北九州ウォーターサービスや北九州市海外水ビジネス推進協議会会員企業との連携・協力が重要であると認識しております。	2	①
27	「外郭団体等との連携強化」について、上下水道局、北九州ウォーターサービス、民間企業でパートナーシップの強化を図り、研修等を行った後に委託業務が可能な部分は委託することで、災害時等に役立つ部分があると思う。	北九州ウォーターサービスや民間企業へ委託可能な業務については、積極的に委託を検討してまいります。	2	①
28	「多様な広域連携の推進」について、上下水道事業の発展的広域化＝多様な広域連携の推進となるのか。 国内外に貢献していく＞上下水道事業の発展的広域化＞相互に利益（効果）が期待できる多様な広域連携⇒発展的広域化の具体化に繋がるのではないのか。 （校正案） 4-1-1 多様な広域連携の推進 近隣自治体との連携を強化し、相互に利益（効果）が期待できる多様な広域連携を推進させることで、発展的広域化の具体化に取り組んでいきます。	本市としては、上下水道事業の発展的広域化とは、圏域全体に相乗効果が期待できる取り組みであると考えており、今後も積極的に取り組んでまいります。	3	①
<b>将来像5（お客さまが求めるものをかたちにする）に関する意見</b>				
29	事業環境が厳しくなっている最大の理由としては、まず北九州市の人口減が大きいと思う。100万人都市は昔の話になったが、年々都市人口が減少していく状況に歯止めをかけ増加に転じる施策の一つとして、水道料金の安さや住みやすい都市、企業誘致等あらゆる手段で全国的にアピールしていく必要があるのではと思う。	市の関係部局とも連携しながら、本市の魅力について上下水道の面からも、しっかりとアピールしてまいります。	2	④
<b>将来像6（培われた技術を未来へつなぐ）に関する意見</b>				
30	上下水道は自治体の事務の根幹だが、行政ですべて担うことは非効率である。行政と民間がいかにうまく連携し、最適な役割分担をしていくことが重要である。上下水道局と一体的に取り組む必要のある事業（施設関係）や公平性を確保する必要がある事業（審査関係）、また、それ以外にも民間でできる事業は、市の外郭団体や市内の優秀な民間事業者をもっと活用すべきである。	本市では、これまでも施設の維持管理や修繕、更新工事、料金徴収や窓口業務等を民間事業者に委託するなど、民間にできることは民間に委ね、市が担う部分については市が責任を持って行っております。 今後、更に民間事業者との連携を推進するために、サービス水準、コストや確実性などを考慮して官民の役割分担を検討し、可能な限り民間を活用することで業務の効率化・運営体制の見直しに取り組むとともに地元企業の育成や地域の産業発展を図っていくことにしております。	2	①

提出された意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他（個別施策に対する意見・要望等）

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
31	民間事業者との連携推進について、具体的な中身がわからない。	本市では、これまでも施設の維持管理や修繕、更新工事、料金徴収や窓口業務等を民間業者に委託するなど、民間にできることは民間に委ね、市が担う部分については市が責任を持って行っております。 今後、更に民間事業者との連携を推進するために、サービス水準、コストや確実性などを考慮して官民の役割分担を検討し、可能な限り民間を活用することで業務の効率化・運営体制の見直しに取り組むとともに地元企業の育成や地域の産業発展を図っていくことにしております。 具体的には、KWSの活用や民間企業が持つ先端技術の活用等について検討してまいります。	2	①
32	「AI等を活用した技術の蓄積・継承の研究」について、AIの更なる活用を期待する。 (活用例) ・ベテラン運転員の代替による技術継承、BCP対策(上下水) ・プロワの最適制御による省エネの実現(下水) ・脱水機の最適制御による運転管理性の向上(下水) ・薬品注入量の最適化によるコストの縮減(上水) ・劣化診断(水道橋・管路等)による維持管理の最適化(上下水) ・故障予知(ポンプ・プロワ等)による維持管理の最適化(上下水) ・浸水予測による被災リスク低減、ポンプ場運転支援(下水) ・分流汚水雨天時侵入水検知・流入量予測による管路溢水・処理場等冠水回避、処理場等運転支援(下水) ・スマートメータ活用による漏水検知技術の実用化(工水)	上下水道事業の技術の蓄積や継承を図るため、AI及びICTを活用した手法の研究に取り組むこととしております。 いただいたご意見につきましては、今後の取組を検討する際の参考とさせていただきます。	2	④
<b>将来像7(健全な経営を行う)に関する意見</b>				
33	基本計画の後半では、収支が厳しくなる。計画にあるように、経営状況が悪化し、累積資金余剰の不足が確実と思われる状況になれば、本市に適した料金体系を構築する必要がある。そのような状況にならない限り、現行の料金体系を維持すべきである。	現行の料金体系の維持に努めつつ、今後も安定した上下水道事業を経営していくため、本市に適した料金体系を構築できるよう、調査や研究を行ってまいります。	2	①
34	資金が不足する状況が確実になったら料金のあり方を検討するとあるが、北九州市の水道料金は他自治体に比べ安く設定してある。将来を見すえ、値上げについて検討すべきではないか。	累積資金剰余の状況を踏まえたうえで、料金のあり方を検討する必要があると考えております。 今後も安定した上下水道事業を経営していくため、本市に適した料金体系を構築できるよう、調査や研究を行ってまいります。	2	①
35	経営基盤強化に向けた検討について、料金が県内で1番安いことは良いが、他市との料金差がわからない。資金不足では困るので、調査研究をして料金体系を検討してほしい。	累積資金剰余の状況を踏まえたうえで、料金のあり方を検討する必要があると考えております。 今後も安定した上下水道事業を経営していくため、本市に適した料金体系を構築できるよう、調査や研究を行ってまいります。	2	①



提出された意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他（個別施策に対する意見・要望等）

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
36	引き続き経費削減など最大限の経営努力をし、上下水道、下水道とも現行料金体制を維持する計画となっており、大変ありがたい。	可能な限り、現行の料金体系の維持に努めます。	1	①
37	経費削減に取り組む経営努力とはトレードオフの関係かもしれないが、計画に追われるのではなく、振り返る時間と見直すことが可能な組織体制も必要ではないか。見直す努力で手間が省けて、生産性のアップにつながることもある。PDCAがきちんと回せる組織体制での取組を願う。	「北九州市上下水道事業検討会」等を活用し、外部からの意見も取り入れながら、適切に事業の進捗管理を図ります。	2	①
38	中期経営計画2025の目標を達成しても事業環境が改善しない場合、特に施設の老朽化に待たはかけられない状況と思うが、その場合は水道料金の値上げもやむを得ないと思う。ただ、突然料金値上げを打ち出すのではなく、市政だよりや上下水道の広報誌等により市民に常々上下水道事業の現状と課題、方策を日ごろから広報しておくことが非常に重要である。	今後も安定した上下水道事業を経営していくため、本市に適した料金体系を構築できるよう、調査や研究を行ってまいります。また、お客さまへ分かりやすいアナウンスを心がけてまいります。	2	①

両計画に共通する意見

計画全般及び基本的方向性に関する意見

39	市民にもわかりやすいように、用語解説、コラム、また、数値化できる目標は、実績と目標値、特に目標の設定根拠まで盛り込んだ点は、非常に工夫している。 この計画は基本理念として「お客さまに信頼される上下水道」を掲げているが、まさに「お客さま」の目線で策定されている。	どなたにでも分かりやすい内容となるよう計画を策定してまいりました。今後も、分かりやすい表現・記述に努めます。	1	①
40	水道が漏水したときや下水が詰まったときは、指定工事店に頼むことになるが、指定工事店の指導・育成（技量の向上やばったくり業者排除など）の記述がない。水道法が改正され、指定工事店の更新制度も導入されたので、新たな取り組みがあれば施策に加えてもらいたい。	地元企業である指定工事店の指導・育成については、これまでと同様に大切な課題と考えていますので講習・研修を引き続き実施していく予定です。	2	④
41	年末に千葉県富津市で4,800戸が4日程度断水になる漏水事故があった。北九州市も膨大な管路があり、一部は老朽化しているので一定の確率で漏水事故はあると思うが、長期間の断水は止めてもらいたい。富津市の漏水は地下の深いところだったので、漏水箇所がわからず、施工も困難で復旧に時間がかかったようで、技術力のある工事業者や漏水調査会社が必要である。 模擬訓練の記載があるが、復旧工事は業者が行うので、平素から十分な仕事を与え、いざというときに頑張れる業者を囲い込んでおく必要があると思うので、何か案があれば施策に加えてもらいたい。	老朽化した水道施設についてアセットマネジメントを活用した効率的・計画的な更新及び維持管理の強化を図り、漏水事故の削減を図っております。 また、水道工事業者や漏水調査会社の技術力維持向上は重要と考えており、事故時の迅速な対応を行うため、事故訓練、技術研修（管路技術研修、漏水調査技術研修）、適正な工事量確保により技術の継承を図ってまいります。	2	①
42	料金収入を上げるために、井戸水から上水への切り替えに対して補助金制度を提案する。積極的に上水への切り替えが行えるようにし、個人からの上下水道料金の徴収件数を増やす。一時的補助金の支出は将来の収入になる。	人口減少等により水需要の減少が予測される中で、ご提案の内容については、需要喚起と料金収入の増加策の貴重なご意見として参考とさせていただきます。	2	④

提出された意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他（個別施策に対する意見・要望等）

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
43	北九州市は深刻な水不足もなく、水道、下水道料金も他の都市よりも安くとても住みやすい。北九州市以外の都市に水を供給できているのは素晴らしいことだと感じている。国際協力について、特にアジアの国に北九州市上下水道局の名を認めてもらっているのはすごいことで、誇らしく思う。	広域連携や国際貢献に取り組むことによって、収入の向上、職員の技術力向上など本市にも様々なメリットがあります。今後も、引き続き取り組んでまいります。	1	①
44	これからの上下水道事業は、給水人口の減少による給水収益の減収や施設の老朽化による更新費用の増大など、これまで以上に厳しい状況が予想される。この状況下において、水道事業は、安全・安心な水道の供給の維持、下水道事業は、生活環境の改善や水域の水質保全の推進をしなければならない。今回の計画については、経営環境の変化に対応した運営をはじめ、災害の備え、老朽化への対応、水安全計画の運用、環境への配慮、国内外への貢献など様々な分野を網羅されており、次世代への配慮もなされていると感じた。また、福岡県内では1番安い上下水道料金を維持していることは誇らしく、職員の努力の証しだと思う。今後も引き続き、北九州都市圏域のリーダーとして、広域連携の推進などを含め、近隣市町をけん引されることを期待する。	今後も安定して上下水道事業を経営できるよう、本計画を着実に推進してまいります。また、広域連携についても、圏域全体に相乗効果が期待できるように取り組んでまいります。	1	①
45	過去の実績や目標で数が出ているものは場所か写真をつけてほしい。 (例) R元実績 5箇所 →R元実績 5箇所(〇〇、〇〇、・・・)	本計画は、これからの取組を中心に記載しており、どなたにもわかりやすい内容になることを目指しております。 目標については、可能な限り箇所等記載させていただいておりますが、過去の実績については情報量が多くなることから、見やすさを考え現状のとおりとさせていただきます。	3	③
46	計画書はできるだけ図解(表やグラフ)を使ってほしい。誰でも分かりやすく、取りつきやすい。	本計画は、どなたにもわかりやすい内容になることを目指しております。記載できる部分については追記をさせていただきます。	3	②
47	非常に安価で良質な水の供給を受けることができおり、感謝している。将来にわたって是非この状態を維持継続してもらいたい。	今後も安定して上下水道事業を経営できるよう、本計画を着実に推進してまいります。	2	①
48	基本理念として「信頼」を掲げていることに好感を持った。現状と課題についても納得することばかりであった。個人的には、安全な水の供給というところが一番関心を持った。水源地域の植樹会などには、ぜひ訪れて森林保全の協力ができればと考えている。	上下水道事業は、お客さまの信頼がなければ成り立ちません。水源地域の植樹や上下水道モニターなど、上下水道事業に対するお客さまの理解を深めていただける取組を、今後も継続してまいります。	1	①
49	水販売員の間でも北九州の水質の良さと安価であることはよく承知されている。皆様の努力のおかげと感謝している。	今後も安定して上下水道事業を経営できるよう、本計画を着実に推進してまいります。	1	①
50	策定の趣旨、基本理念に基づき、5年先10年先を見すえ、充実した内容で分かりやすく素晴らしい計画案だと思う。	今後も安定して上下水道事業を経営できるよう、本計画を着実に推進してまいります。	1	①

提出された意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他（個別施策に対する意見・要望等）

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
51	策定の趣旨にあるように、近隣自治体とのさらなる広域連携の推進や、OECDから「SDGs（持続可能な開発目標）推進に向けた世界のモデル都市」に選定された都市として、上下水道事業からの視点だけではなく、担当部局と連携した取組や目標の設定がもう少し盛り込まれても良いと感じた。	今回の計画は、上下水道事業に特化した視点で策定しているため、担当部局との取組については盛り込んでおりません。 今後、広域連携やSDGsの取組を推進していく中で、他部局とも連携してまいります。	3	③
52	・いつでも安心して飲める安全な水を届ける ・地震や大雨、その他災害リスクの備え ・施設の老朽化への対応 が大事である。	ご指摘の点は、いずれも重点施策として位置付けており、本計画を着実に推進することで対応してまいります。	2	①
<b>将来像1（市民生活を支える強靱な上下水道をつくる）に関する意見</b>				
53	近頃は水道管が破損して道路冠水し通行不能になったニュースや、下水道管の破損で道路に穴が開き自動車が脱輪したなどの事故報道が以前よりも減少したように感じる。上下水道管の点検調査、老朽下水道管の更生や水道配水管の更新など計画的な維持管理と長寿命対策が着実に進められている成果ではないか。また、不慮の災害や事故への万全の備えと対応能力の維持向上にゆるまず取り組み、この先も引き続いて努力される計画内容であると推察し、利用者として日々感謝するとともに安心している。	高度経済成長期以降に集中的に整備した施設の更新、局地的な集中豪雨など近年頻発する自然災害などに対応するため、効率的かつ効果的に施設整備を進め、市民生活の安全・安心に努めてまいります。	1	①
54	上下水道施設は、統廃合により、設備の効率化を図るとともに、適正な稼働率を確保することにより、設備の効率を向上させる方策を実施すべきである。	高度経済成長期に集中して整備を行った施設の改築・更新費の増大が想定されます。このため、長期的な視点に立ち、将来需要を見すえ、上下水道施設の規模と機能の最適化を図るとともに、設備効率の向上に努めてまいります。	2	①
55	災害対策について、近年多発化・激甚化している中、更に加速化する必要があるかと思う。特に豪雨対策では「重点整備地区の整備完了増」、耐震対策では「耐震化率の更なる向上」を期待している。	豪雨対策について、重点整備地区の16地区のうち、半数以上にあたる9地区について、令和7年度末までの整備完了を目指しております。 耐震化について、水道事業では、安定した給水ができるよう浄水施設や配水池、基幹管路、広域避難地等に至る配水管などの耐震化を行ってまいります。 下水道事業では、最低限の水処理機能を確保するため、浄化センターに近接するポンプ場や防災拠点等に係る重要な管渠などの耐震化を優先的に進め、施設の耐震化率の向上に努めてまいります。	2	①
56	これまでに建設してきた膨大な施設の老朽化が進んでいる。改築更新対策を講じなければならない施設が大量に、更には今後増大していくことは承知しており、改築更新事業を推進していくことに共感する。	今後、上下水道施設の更新時期が集中的に到来し、事業費の増大が見込まれることから、適切な維持管理に努めていくとともに、長期的な視点から、施設の規模と機能の最適化を図り、重要度・劣化度などに応じて計画的に改築・更新を進め、全体事業費の低減と平準化に取り組んでまいります。	1	①

提出された意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他（個別施策に対する意見・要望等）

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
57	防災・減災・強靱化については、ハード・ソフト一体となった取り組みを期待するとともに、i-ConstructionはもとよりDX（デジタルトランスフォーメーション）に対応する各種事業にも取り組まなければならないと思う。	DXの推進に向けて、「AI等を活用した技術の蓄積・継承の研究」などの取組も踏まえ、デジタル技術の活用を検討していきたいと考えております。	2	①
58	「停電対策」について、下水道施設のうち、浄化センター、ポンプ場のほか、低地ポンプ場の停電時の対策もマニュアル化してほしい。	さまざまな災害リスクなどに備え、バックアップ機能の確保や連絡体制の整備に今後とも努めてまいります。	2	④
59	「自助・共助の促進に向けたソフト対策」の充実について、浸水想定区域図の拡充を図る際は関係団体との意見聴取の場を設けてほしい。	市民の方が活用しやすいように、関係機関と調整しながら、検討を進めてまいります。	2	④
60	「浸水被害の最小化」について、雨水ポンプ場の設置から十数年経った機器もあり、能力的に賄いきれないポンプ場もある。浸水の状態を調査し、ポンプ能力の大型化や増設等を検討してほしい。ポンプ基盤の中には経年劣化する部品も多々あり、納期にも時間がかかるようである。事前交換はコスト的にも合わないと思うので、故障した場合に交換できるように予備品の確保があると維持管理上安心できる。	過去に浸水被害が発生した地域を優先しながら雨水整備を進めてきましたが、近年の局地化・集中化する豪雨から市民の生活を守るため、新たに「重点整備地区」を設定し、より一層効果的な雨水整備を進めてまいります。 雨水ポンプ場の経年劣化については、日常・定期点検を通じ把握しており、浸水被害等が発生しないよう維持管理を行っております。また、一部重要機器については、故障対応のため各種予備品を確保しております。	2	④
61	「災害時における機能確保の推進」について、専用仮設トイレだけでなく、一般に使用されている簡易水洗式・貯留式仮設トイレのドレン部（排水口）を直結するシステムを設定しておけば有事の際の対応がスムーズになりコストダウンにもなるのではないかと。また、対象のマンホールの蓋をマンホールトイレ対応口つきに替えるのも良いのではないかと。	上下水道局では、広域避難地にマンホールトイレの整備を進め、「災害時におけるトイレ機能の確保」に努めてまいります。	2	④
62	「アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新」について、LCCの最小化と平準化を図る中で、年度内の発注の平準化もさらに進めていただきたい。ガードマンの平準化にもなり、ガードマン不足の解消にもなる。	本市の上下水道工事におきましては、計画的な工事発注や、工事施工・発注時期の平準化に取り組んでおります。 今後、工事施工・発注時期の平準化の取組を推進し、効率的・計画的な施設の更新に努めてまいります。	2	④
63	災害発生時に民間事業者や他都市と連携することはもちろん大切だが、初動体制の一環として、上下水道業務経験のあるOB・OGによる応援体制の構築（消防団、自警団的なもの）を検討してはどうか。OB・OGは、市域全体の上下水道インフラにも精通しており、応援を求めるにはこれ以上の人材はない。何よりも、これまで上下水道事業を担ってきたプライドと事業そのものに対する深い愛情が災害時の大きな力になる。	今後、上下水道業務経験のあるOB・OGを中心とする団体等とも協議し、災害時等の連携の可能性について、他都市の事例等を調査してまいります。	2	④

提出された意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他（個別施策に対する意見・要望等）

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
64	「自助・共助の促進に向けたソフト施策の充実」について、ICTを活用した防災対策（スマートフォン向けアプリの開発など）を実施すべきである。	豪雨災害時に市民の方が迅速な行動がとれるよう内水浸水想定区域図の拡充を図る中で、ICTを活用した取組については、関係機関と調整しながら、検討を進めてまいります。	2	④
65	災害時の近隣自治体との連携について、特に飲料水に関しては生きていく上で大事なものでしっかり協力していくことが大事。	日本水道協会内の支援体制や近隣自治体及び民間事業者との支援協定などにより、非常時に備えて合同防災訓練等を実施し、災害時の対応能力向上を図ってまいります。	2	①
<b>将来像3（環境負荷の低減を図り、持続可能な社会に貢献する）に関する意見</b>				
66	「再生可能エネルギーの活用」について、低地ポンプ場の太陽光パネルの設置が、停電時の非常用電源として有効と考える。	停電時におけるバックアップ機能の確保や連絡体制の整備に今後とも努めてまいります。	2	④
67	当方が関わる下水汚泥の固形燃料化事業は、計画の中でも記載されている通り、資源の有効活用の具体策であるとともに、創り出された汚泥燃料は政府が導入拡大を進める再生可能エネルギーであり、環境省が提唱する“地域循環共生圏”の一助となる可能性を持っている。 貴市も本年1月7日付で2050年までに脱炭素社会の実現を目指す、ゼロカーボンシティを表明されており、今後改定されていく北九州市地球温暖化対策実行計画と今回策定された事業基本計画2030、中期経営計画2025が上手く連携される内容となることを期待している。	汚泥燃料化事業で製造された燃料化合物は、主に北九州市地域で利用されており、“地域循環共生圏”の一助となっていると考えております。また、汚泥燃料化事業と本市の各計画・施策との連携について、検討を進めてまいります。	2	④
<b>将来像4（国内外へ貢献していく）に関する意見</b>				
68	上下水道設備の有効活用及び効率的な運用を実施する観点から、周辺自治体への業務拡大を積極的に推進すべきである。	本市が有する施設を有効活用し、圏域全体に相乗効果が期待できる広域連携を進めてまいります。	2	①
69	30年後を見すえ、ブレイクスルーとなる取組を果敢に行っていただきたい。海外水ビジネスについて、公共事業として限界や制限があるならば、積極的に取り組めるよう民間事業体に近い組織を外部に作ってはどうか。北九州ウォーターサービス、その他水資源関連企業や国内の関係企業にも声をかけ、世界の水インフラ問題を市場とする総合的な事業体を北九州に起こし、北九州を水ビジネス事業のハブとする。それにより関連する企業、研究施設等の誘致・人口流入も図り、水資源の有効活用と世界貢献のレベルアップをしていただきたい。	ご指摘のとおり、海外水ビジネスを地方自治体のみで推進するのは困難です。全国に先駆けて、2010年から官民連携組織「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を立ち上げ、地元企業等と連携しながら、海外水ビジネスを実施し、本市の産業振興を推進しております。	2	①

提出された意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他（個別施策に対する意見・要望等）

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
70	<p>水道事業について、福岡都市圏との相互融通や芦屋町・水巻町・宗像地区などの包括的な業務委託は一定の成果を上げているが、100万市民の施設財産の余力（120万人～150万人の能力）を周辺市町への包括的な水協力の役割が必要かと思う。周辺市町はきれいな水に困窮している。解決策の一つとして力丸ダムの取水量変更があるが、国の承認や北九州市にも影響が出るなどが考えられる。そこで、本市において、周辺市町への安定した水・きれいな水を供給するスキームを講じるべきではないか。</p>	<p>本市が有する水道施設を有効活用し、圏域全体に相乗効果が期待できる広域連携を進めてまいります。</p>	2	①
71	<p>洞海湾と紫川の再生は、国内外も認める市下水道事業の大きな成果と思う。しかし、周辺自治体は未だ、一部には一級河川である遠賀川に汚水を放流し、その水を取水堰から飲料用に使用している。（本市も一部地域は同じ） 是非、周辺地域の下水道整備も北九州市が培った施設整備手法や下水道施設の管理、そして技術や人の活用を図る計画を作成してほしい。アジア周辺諸国も大切であるが、周辺自治体の下水道整備（雨水整備も含め）は直接本市に良質な影響を及ぼすものとする。まさに、近隣自治体との広域連携であり、SDGsの目標の一つである水環境の解決に向けた取組であると思う。</p>	<p>遠賀川の水質保全に関する取組としては、引き続き、流域で環境保全活動を行っている団体への支援、河川管理者等関係機関との連携、及び国や福岡県に対する水質汚濁防止対策の提案を実施いたします。 また、周辺自治体との勉強会等により、課題やニーズを把握しながら、広域化・共同化の検討・協議を進めてまいります。</p>	2	④
72	<p>広域連携について、正式な受託契約前の相手方との交渉において、市が応分の利益を得られるように話をしていくことが重要だと思っている。なぜなら、そのことが市から再委託を受ける民間企業にも影響するからである。北九州市が上下水道分野の先進都市であるとしても、ボランティアではないのだから応分の負担をしてもらって本当のウィンウィンの関係を実現してもらいたい。現状の利益率は低すぎる。</p>	<p>本市が有する施設を有効活用し、圏域全体に相乗効果が期待できる広域連携を進めてまいります。</p>	2	①
73	<p>広域連携における指揮命令系統について。発注者（宗像事務組合）、元請（北九州市）、下請（再委託を受ける民間企業）の関係性において、発注者から下請業者に直接指示が下るのは、普通の委託契約関係から考えるとおかしい気がする。その辺をきちんと整理しないと、思わぬ不満が蓄積することになるのではないか。</p>	<p>指揮命令系統が確立されていることは、重要であると認識しております。 広域連携の推進にあたっては、検討段階から、適切な指揮命令系統となるような業務実施体制について検討してまいります。</p>	2	④
74	<p>広域連携における事務処理ルール等について、発注者によって保守管理の方向性や事務処理方法についての要望が異なることは、予測されるし、やむを得ないこととして捉えられがちだが、受託側の考え方、方向性、手法等を整理して交渉に臨まないで、後々、様々なことが煩雑かつ非効率になるように思える。今後も包括受託を検討するのであれば、そこは考慮して交渉にあたってもらいたい。</p>	<p>広域連携にあたっては、検討段階から、受託側の考え方等を整理し、効率の良いスキームとなるよう努めてまいります。</p>	2	④

提出された意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他（個別施策に対する意見・要望等）

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
<b>将来像5（お客さまが求めるものをかたちにする）に関する意見</b>				
75	<p>広報活動の拡大・深化について、水道週間やイベント時の取組だけでなく日常的に取り組んではどうか。</p> <p>「水無くして生命なし、社会なし」を意識して、「生涯教育」として位置付け、小中高大等、「知育」との係りを多くしていくという方向はどうか。</p> <p>「小」では浄水場等水道施設で社会科見学を実施していると聞くが、「出前授業」の拡大や水をテーマにした取組を深化させてほしい。</p>	<p>小学生を対象とした情報発信としては、社会科副読本の制作・配布や出前授業の実施、見学受け入れ等に、引き続き取り組んでまいります。今後の取り組みとして、学校や自宅などでも実践できる浄水処理実験の紹介や、小学生にもわかりやすい水質検査結果の解説等新しいコンテンツの発信、令和3年度からは、小学4年生を対象に、下水道の仕組みや役割などを理解してもらうため出前授業を実施してまいります。</p> <p>また、一般の方や中高大生を対象とした広報としては、雨水貯留管施設などの見学会の開催や、上下水道ユース研修、大学と連携したオンライン出前講座、上下水道に関するテーマを13項目用意した出前講演、日明浄化センターの体験型施設「ビジターセンター」の見学などを実施しております。</p> <p>今後もお客さまのニーズに合わせて内容の見直しを継続しながら、上下水道事業の広報に取り組んでまいります。</p>	2	①
76	<p>上下水道事業では、各地で上下水道管の老朽化に伴う漏水事故や道路陥没事故等が起きており、そのニュースを見て上下水道管の現状と、断水した場合の生活への影響を知り、上下水道の大切さを改めて思い返す。上下水道を大切だと思える意識の醸成と共有は、今後の料金値上げの議論など上下水道事業に対する理解を得るためにはとても重要であると思われ、そのためにも市民に向けた積極的な情報発信や、学習機会の提供等を行うことが必要だと考える。</p>	<p>現在、上下水道局では、ホームページや広報紙、市政だより、出前講演等を通じて、上下水道事業や局の取組等についてお知らせしております。</p> <p>今後も、既存の広報に加え、市の公式SNS等も積極的に活用するなど、より多くのお客さまに、わかりやすくタイムリーな情報発信を行い、上下水道事業への理解を深めていただきたいと考えております。</p>	2	①
77	<p>上下水道事業は市民生活にとって身近なことでありながら、こうして将来計画が示されると素人には内容を読み解くのが難しく、パブリックコメントを求められても「だからどうなんだ」という思いになる。日頃からのアナウンスの必要性を感じる。</p>	<p>現在、上下水道局では、ホームページや広報紙、市政だより、出前講演等を通じて、上下水道事業や局の取組等についてお知らせしております。</p> <p>今後も、既存の広報に加え、市の公式SNS等も積極的に活用するなど、より多くのお客さまに、わかりやすくタイムリーな情報発信を行い、上下水道事業への理解を深めていただきたいと考えております。</p>	2	①
78	<p>「効果的な広報・広聴活動の推進」について、情報発信のデジタル化という点で、文字以外の各種情報（災害時臨時給水情報や使用水量の照会など）も発信できる仕組み（スマホ向けアプリの開発など）を整備するべきである。</p>	<p>現在、上下水道局では、ホームページや広報紙、市政だより、出前講演等を通じて、上下水道事業や局の取組等についてお知らせしております。</p> <p>今後は、既存の広報に加え、市の公式SNS等も積極的に活用するなど、より多くの皆さまに、わかりやすくタイムリーな情報発信を行い、上下水道事業への理解を深めていただきたいと考えております。</p> <p>また、アプリについては、市の関係部局とも連携しながら、お客さまにとって利便性が高く、有益な情報発信の仕組みを研究し、検討してまいります。</p>	2	④

提出された意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他（個別施策に対する意見・要望等）

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
79	「営業業務の見直し」について、デジタル技術の活用によりBPO業務も自動化（IVRやチャットボット）に取り組んでいくべきである。	ICT技術等デジタル技術の活用については、調査・研究を行い、費用対効果（お客さまサービスの向上）等を検討しながら、取り組んでまいります。 いただいたご意見は、今後の取組を検討する際の参考とさせていただきます。	2	④
80	「料金の支払や各種手続き方法の拡充」について、スマホやWebから各種手続きを一気通貫にオンライン化できる仕組みも整備すべきである。	現在のWebからの開始・中止申込に加え、口座振替申込の導入に取り組むこととしております。 お客さまサービスの向上を図るため、いただいたご意見については、今後の取組を検討する際の参考とさせていただきます。	2	④
<b>将来像6（培われた技術を未来へつなぐ）に関する意見</b>				
81	技術継承で『（株）北九州ウォーターサービスや地元企業と連携すること』とあるが上下水道局が緊急時に1番に相談する民間企業は管工事組合だとすると、組合員が多いほど頼りになる。ところが、組合員であるメリットが少ないため、組合員の数も減少傾向にある。上下水の一般家庭などの給排水工事の届け出先は北九州ウォーターサービスになっているため、組合員のメリットとして申請時の提出書類を簡素化し、北九州ウォーターサービスの職員減少時にも対応できる仕組みを作ったかどうか。	民間事業者などとの連携を強化しながら、事故発生時など、緊急時における対応能力の向上に努めてまいります。また、給排水工事に係る提出書類の簡素化につきましては、電子化等の流れを踏まえ、今後対応していく予定です。	2	④
82	「民間事業者等との連携推進」について、将来の包括的民間委託を見すえて部分的に例えばスクリーニング計画・調査・管理等を含んだ委託業務などに、地元企業のためにも取り組んでほしい。	本市ではこれまでも施設の維持管理や修繕、更新工事、料金徴収や窓口業務等を民間業者に委託するなど、民間にできることは民間に委ね、市が担う部分については市が責任を持って行っております。 今後、更に民間事業者との連携を推進するために、サービス水準、コストや確実性などを考慮して官民の役割分担を検討し、可能な限り民間を活用することで業務の効率化・運営体制の見直しに取り組むとともに地元企業の育成や地域の産業発展を図っていくことにしております。	2	④
83	「民間事業者等との連携推進」について、地元企業育成や地域の産業発展を図る中で、市内業者で可能な工事は市外業者の下請けを制限する、もしくは工事評点を加味するなど考えてほしい。	上下水道工事におきまして、技術的に施工が可能なものにつきましては、市経済の振興と地元企業の育成を図るため、地元企業への優先発注を推進しております。 一方で、下請に関する市外業者の制限等につきましては、事業活動を制限するおそれがあり好ましくないという公正取引委員会の見解が示されております。 この見解を踏まえ本市では、工事契約時に全ての受注者に対して、下請には市内企業を優先するよう文書で要請しております。 今後も、地元企業への優先発注などの取組を通じ、民間事業者等との連携推進に努めてまいります。	2	④



提出された意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他（個別施策に対する意見・要望等）

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
84	水道に関しては、民営化は絶対にしてほしくない。利益を追求したら、水の安全は守られなくなると思う。適宜、民間の業者を使うことは仕方ないと思うが、どんな業務をどの業者にどの程度依頼しているのか知りたい。何かの機会に知らせてもらうことは可能か。	上下水道局では、持続可能で安定的な事業運営を行うために、民間事業者と連携しながら事業を進めておりますが、安全・安心な水の供給については、上下水道局が責任を持って行っております。 本市はこれまで、民間事業者には、施設の維持管理や修繕、更新工事、料金徴収や窓口業務などの定型的な業務や、民間に委ねた方が効率的な業務を担っていただいております。なお、主な委託の業務内容や委託先については、ホームページや窓口で確認できるようにしております。	2	④
85	どんなに良い計画があっても、それをうまく実行する能力を持った人がいないと何の役にも立たない。人材育成はすべての基本である。	人材育成は大変重要なことであると考えており、事業の安定的かつ効率的な運営に必要な技術力を確保するため、OJTなどを活用した技術研修や、職員の技術力向上に資する資格取得の支援を行ってまいります。	2	①
<b>将来像7（健全な経営を行う）に関する意見</b>				
86	生活の最重要インフラである水道施設は発展し続けなければならないが、有収水量が先細りの財政では上下水道の発展の妨げになる。 設備投資や維持管理、緊急時や国際貢献などの費用は必要で、福岡県内でも上下水道料金が1番安い北九州市の上下水道料金を上げて、将来を見ずえる必要がある。	今後も安定した上下水道事業を経営していくため、本市に適した料金体系を構築できるよう、調査や研究を行ってまいります。	2	①
87	長期収支を見る限り、水道料金等の見直しはやむを得ないものと思う。他都市と比較してまだまだ安いからある程度値上げするというのではなく、市民がこれからも安全・安心な水の供給を望むのであれば、そのために必要な人材の確保・育成やインフラの保守・整備に係る経費負担を受益者に求めるのは当然のことであると考えている。インフラの更新がなされなかった時のマイナス面なども市民に分かりやすくアナウンスしながら、料金改定の必要性和必然性を周知してほしい。	今後も安定した上下水道事業を経営していくため、本市に適した料金体系を構築できるよう、調査や研究を行ってまいります。また、料金改定の必要性についてお客さまへ分かりやすい説明を心がけてまいります。	2	④
88	長期収支見通しが、すべてマイナスになっているのが気になる。値上げありきで事業計画しても良いと思う。	公営企業としての役割である安定的なサービスを提供するため、本計画には、所要の事業費を盛り込んでおります。 これらの事業を推進していく中で、資金が不足する状況が見込まれる場合には本市に適した料金体系を構築し、上下水道事業を安定して経営できるよう取り組んでまいります。	2	④
89	「AIやICTを活用した業務の効率化」について、難検針地にはスマートメータの導入を進めるべきである。	スマート水道メーターは、難検針地区での検針員の安全性確保や効率化等多くの効果を見込むことができます。しかし、一般のメーターと比べ高価なことに加え、技術的な検証等も必要となっております。 今後、導入に際しての課題を整理するとともに他都市の動向を注視するなど導入にあたっての研究を進めていく予定です。	2	④

提出された意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他（個別施策に対する意見・要望等）

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
90	「AIやICTを活用した業務の効率化」について、上下水道局職員においてもテレワーク等を実施すべきである。	働き方改革の一環として、上下水道局においてもテレワークを実施しております。実施にあたっては、Web会議やChatLackの導入など、情報共有の効率化にも留意しております。	2	④
91	「AIやICTを活用した業務の効率化」について、水需要予測などの分野でAIの活用を進めるべきである。	有効な手法の一つであると考えられますので、いただいたご意見につきましては、今後の取組を検討する際の参考とさせていただきます。	2	④
92	工業用水道事業では、北九州の工業の多さを生かし、商業用施設などにも多く利用していけるのではないかと。	商業用施設などでの工業用水の利用は、工業用水道事業法において一定の要件を満たすことが必要となりますが、より多くの企業に利用していただけるようPRしてまいります。	2	④
93	収入の確保について、各設備の老朽化や統廃合で使われなくなった施設を民間に売却し、その費用を耐震工事などに有効活用してほしい。	売却可能な資産については、これまでも順次売却を行っております。今後も、資産の洗い出しや売却の可能性の検討を行い、収益の確保を図ってまいります。	2	①
<b>その他の意見</b>				
94	これまでに「北九州市水道事業基本計画」「北九州市下水道ビジョン」「北九州市上下水道事業中期経営計画」を作成し計画的に推進してきたと書いているが、達成率はどうか。問題点はなかったか。	現在の中期経営計画（平成28年度から令和2年度）に定める経営目標、経営指標、事業目標については、各事業に積極的に取り組んできた結果、令和2年度末に概ね目標を達成する見込みであり、順調に計画を推進できたと考えております。	4	④